

研究所年報 巻頭の言葉

医学教育が見直され、2002年4月から多くの医系大学がコアカリキュラムを実施する様である。学生の負担を減らし、各大学ごとに個性ある医者を養成することが目的と聞く。この中に6年間の医学教育を終了した時点で「和漢薬について概説できる」ことが目標と定められている。大変結構なことでこの一行を加えることに努力を払った先生方に敬意を表したい。欧米における complementary and alternative medicine（代替・相補医療）の動きがわずかながらわが国に伝わってきた感じがする。医学教育の動きを受けて、薬系大学でもコアカリキュラムを作成すべく動いている様で種々の資料を見せてもらったが、医学教育に見られる様な骨太な改革になっていない様に思われる。現行の薬学教育でも果して「和漢薬について概説できる」教育を行なえる教員がどれだけ全国にいるかと言えは淋しい限りではないかと思う。

和漢薬研究所は設立以来、和漢薬の科学的解明に努め、最近では寄附部門の先生方が漢方治療に専念している。時代はわが研究所に追い風を送っているはずであるが、まだまだ身に沁みてそれが感じられない。我々の増々の努力が要請されているものと判断したい。

2001年は国際伝統医学シンポジウム、日台シンポジウムなど国際シンポジウムに和漢薬研究所がリーダーシップを取って開催した。また、タイ国との国際交流拠点としての第一年であった。アジア諸国での私達研究所の評価は極めて高く、これまで二百名以上の留学生や研究者が在籍したが、この機会にアジアの伝統医学研究の拠点として旗揚げしたいと思っている。大学間及び部局間交流協定校も徐々に増え、学生、教官の交流が活発となり名実ともわが研究所が伝統医学研究のメッカとなりたいものと密かに思っている。

2002年1月

和漢薬研究所長 服部 征雄